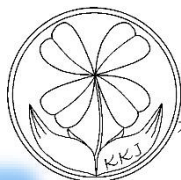


第 14 号 KenKouJi ニュース

神奈川県公立小中学校等事務研究協議会ニュース



2022（令和4）年2月8日
神奈川県公立小中学校等事務研究協議会
会長 渡辺 卓夫
広報部長 進藤 恵理子
平塚市立旭陵中学校
TEL 0463-59-0400

第 21 回 神奈川県学校事務研究大会 オンライン形式で開催しました！

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第 21 回 神奈川県学校事務研究大会は全面オンライン形式で開催しました。その大会の様子についてお伝えします。

今回の研究大会は、期日を 2 回に分け、（１）研究発表、（２）記念講演、研究のまとめを行いました。

第 1 部は、研究部による研究報告です。研究報告は 12 月 9 日より本 HP 上でオンデマンド配信されました。今回の研究部報告は、” かながわ学校事務研究委員会” による『子どもたちのために新たな事務職員としての一步を踏み出そう！』～標準的な職務表から、私たち事務職員の可能性を探る～』と題した報告です。

2018（平成 30）年度の「かながわ学校事務研究委員会」報告を受け、研究委員を刷新しながら継続的に研究を進めてきました。2020（令和 2）年 7 月、文部科学省より発出された「事務職員の標準的な職務の明確化に係る学校管理規則参考例等の送付について」の通知をもとに「かながわの学校事務職員」の職務内容及び職位に応じた行動例を発表しました。

経験の積み重ねや意欲の向上に伴って、行動の軸となる「姿勢」「能力」「視野」の段階が深まり、職務内容も高いレベルのものに成長していくと考え、これからの事務職員の可能性や期待を込めた記述も行動例に含めて作成されています。

今後の事務職員の可能性については、「今まで事務職員本来の職務だと考えられてきた「給与・旅費・服務」などの定型業務が、今後、ICT 活用によってスリム化され、学校の企画運営に携わる比重が多くなるのではと考えています。学校内の業務がすべて今までどおりではなくなってきます。事務職員の職務も新しい視点で考えていく必要も出てくると思います。『一人で』『すべての職務を同じ熱量で』取り組まなくてはならないとプレッシャーを感じてしまう必要はないと思うのです。優先順位を決めたり、対応策を検討したり、共同学校事務室などで、事務職員同士で相談や情報共有することも大切だと思います。」と考えを述べました。

研究発表の終わりに、研究委員 1 人 1 人から今決意している『私が目指す事務職員像』を宣言しました。



アウトライン

- 学校事務職員制度誕生の背景
- 学校教育をとりまく社会の変化と教職員の業務負担
 - 生徒の教育上の課題や教育的ニーズの多様化による教職員の業務負担増大
- 学校教育の改善に学校事務職員が果たせる役割
 - 組織内の多様性や異端の許容の重要性ー『失敗の本質』から



第2部は、1月14日にZoomミーティングにより記念講演と研究のまとめを開催しました。

記念講演では、明星大学教育学部 常勤講師の神林 寿幸様をお迎えして「学校における働き方改革の進展に向けて、事務職員ができること」と題するお話をいただきました。神林先生は教育行政学を専門として、様々な調査研究に

携わってこられました。近年は特に教職員の働き方に関して単著・共著を出版され、緻密な調査と統計の分析を通して教員の業務負担の主要因を解明した『公立小・中学校教員の業務負担』（大学教育出版、2017）では日本教育行政学会賞を授賞されるなど、その業績は高く評価されています。講演では演題の通り、学校事務職員が働き方改革で果たす役割について、高い知見をもとに有意義なお話をいただきました。

最初は、学校事務職員制度誕生の背景や現在に至るまでの歴史を概観し、学校教育をとりまく社会の変化と教職員の業務負担についての話がありました。以前から学校で働く教職員の長時間労働は顕在化しており、多忙の問題は指摘されていました。産業構造の高度化に伴い、学校教育をとりまく社会が戦後から現代にかけて大きく変化しています。各調査データを検証すると、実質 GDP は長期的に上昇しているものの、生活満足度は上昇しないままであり、学習や発達・成長の個人差の顕在化、新たな家庭環境の変化など、学校に求められる教育的ニーズは多様化するばかりです。

神林先生の研究結果『公立小・中学校教員の業務負担』（大学教育出版、2007）によると、授業以外の教育活動の時間や、児童指導・生徒指導・部活従事にかかる時間が多くなっていることがわかりました。次に、学校事務職員の研究結果についても言及がありました。教員よりも公立学校事務職員の病気休職発生率が高いそうです。また、佐賀県・三重県の学校事務職員の業務負担について調査したところ、特定の共同実施組織に過重労働の職員は集中しておらず、労働時間・負担感はどこも同程度であったものの、同一の組織内に事務職員の負担差が確認され、個人の置かれている状況が異なるそうです。

「全国的なコミュニティ・スクール導入の状況下で、教職員の負担感をどう考えるか」という神林先生から参加者への問い掛けがありました。神林先生による勤務時間調査研究結果では「保護者や地域との連携が活発であること」が事務職員多忙化の要因のひとつとされている中で、学校教育の改善に学校事務職員が果たせる役割は何なのでしょう。神林先生は環境変化に対応できる組織づくりのヒントとして、30年前の古典的名著『失敗の本質』を用いて具体的な提言がありました。失敗の本質が提示する教訓は、失敗があったとしても、咎めたり隠蔽したりするのではなく、そこから教訓を抽出し次に活かしていくことが重要であり、新たな環境に適応するための自己革新能力の想像が鍵である、と述べました。

最後に、働き方改革を通じた学校教育の改善に取り組む上での留意点について言及がありました。学校の働き方改革とは学校教育のバージョンアップであり、教育行政、学校、教職員、児童生徒、保護者、そして社会全体が向き合うことでバージョンアップしていく必要があります。現状に対する丁寧な分析を行い、エビデンス（根拠）や優良事例を活用し、個々でアレンジした上で職務に取り組むことが求められます。「学校事務職員の強みを学校教育の改善に活かす、総務・財務等に通じる専門性を高めて学校教育の改善を進める、学校の現状を客観的かつ俯瞰的に分析する、違った視点から学校教育をみる、学校の外の状況にも目を向けて視野を広げる」などという提言がありました。

講演の締めとして、往年のロックバンドであるビートルズの歌詞から引用し、学校事務職員への激励の言葉がありました。苦しいことや辛いことが多少伴うことがありますが、何か返ってくるのではない

でしょうか。色々と大変なことが多いですが少しずつ積み重ねることが大事ですとお話されました。

記念講演に引き続いて「研究のまとめ」を開催しました。

「新たな時代に求められる学校事務職員の役割」について、研究委員会の報告をもとに討議しました。討議に参加されたのは、

◇明星大学教育学部 常勤講師 神林 寿幸 氏（助言者・記念講演講師）

◇横須賀市立浦郷小学校 教頭 筒井 宣行 氏

◇横須賀市立長浦小学校 主任事務主事 長谷川 貴司さん（県公事研研究部長）

◇藤沢市立高谷小学校 事務主査 渡辺 卓夫さん（進行・神事研会長）

の4名方々です。

はじめに、県公事研研究部 長谷川さんより、かながわ学校事務研究委員会研究報告の要約を説明し、パネラーの3名には、研究委員会の報告（「かながわの学校事務職員」の職務内容及び職位に応じた行動例）についてそれぞれのお立場からご意見をいただきました。

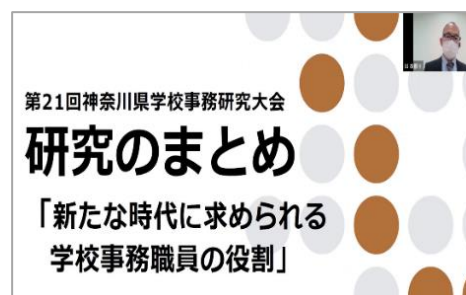
また研究報告動画について参加者から寄せられた「学校事務職員の職務に対する教育委員会や学校（管理職・教員）の理解についてどう考えるか」という質問についてそれぞれのパネラーから考えを述べていただきました。

長谷川さんは「事務職員の標準的職務を明確化することにより教育委員会や管理職の理解を得ることができる」と考えを述べました。

2021年3月まで横須賀市教育委員会教職員課指導主事として、横須賀市立学校の共同学校事務室の設置、事務職員の職務標準制定に向けてご尽力されていた筒井氏からは、教育委員会、管理職の意見として、横須賀市における学校職務標準表を定めたねらいと経緯について詳しくご紹介いただきました。今後に期待することとして「子どもたちに対して効果的な教育活動を行うため、これからの学校経営において学校事務職員は今まで以上に必要不可欠な存在であり、学校経営職員としての動きが皆さんに期待されている。そのために、人材育成、研修体制充実を着実に進めていき、管理職の理解、教育委員会とも連携しながら一緒にすすめていくことが良いスパイラルになる。」と述べられました。

最後に、助言者の神林先生に研究のまとめに代えて、今後の研究展望として2点、「（1）各地でつくられた職務標準表がうまく運用できているか実態調査し、持続可能性があるものにブラッシュアップしていくことが大切になってくる。（2）共同学校事務室の連携の在り方は今後運用の在り方を考えていく必要がある。コロナにより皆が一同に集まっていた活動が難しくなっているなか、オンラインを活用した共同実施や連携の在り方が必要となってくる。また学校の統廃合によって、共同実施組織を構成する学校が変わってくるなかで（移動距離が増えたりするので）、共同実施のマネジメントについて考えることが重要になってくる。」とお話をいただきました。

私たち学校事務職員の職務がこれからどうあるべきか考えさせられる討議内容となりました。



「事務職員あるある川柳」 届きました！

育休者 来校前に Call me

ペンネーム：じむやまじむこ

エピソード：育休中の先生が不意に来校「書類に職印もらいたくて」いや今日は管理職両方不在…とか。連絡くれていれば事務から渡したい書類があったから準備したのに、とか。なかには先生自分の用事だけすまして事務室には寄らないで帰る、とか（渡す書類いっぱいあるよー？）育休中の方、来校前には電話 1 本ください…。

みなさまからの名作、迷作お待ちしております！！いただいた作品はこれからもホームページなどで紹介していきます。

【応募上の注意点】

- ・「川柳」として募集しますが、多少の字余りや字足らずも可です。
- ・応募できる方は、日本国内の学校事務職員に限ります。また、作品は自作で未発表の作品に限ります。
- ・応募作品の著作権は神奈川県公立小中学校等事務研究協議会（県公事研）に帰属させていただきます。
- ・応募いただいた作品は県公事研理事会で確認し、ホームページやKKJニュースに掲載させていただくことがあります。その場合には「所属名」や「個人名」は一切公表せず、ペンネームのみの公表とさせていただきます（神奈川県外から応募の場合は都道府県名を掲載します）。
- ・作品の応募は、右のQRコード、下記のURLからKKJwebに入り、
https://kanajiken.sakura.ne.jp/nc3/kkj/news/page_20210825061540
所定の投稿フォームにてお願いします。①氏名②所属名③所属電話番号④ペンネーム⑤川柳 ⑥エピソード（任意）を入力し、その下の「決定」ボタンを押してください。

